

電子ジャーナルバックファイル等の 国レベルでの整備に向けた調査・企画

学術基盤推進部 図書館連携・協力室 (JUSTICE)

実務研修生 柴田育子

発表内容

1. バックファイルとは？
2. バックファイル整備の背景と現状
3. 世界でのバックファイル整備状況
4. バックファイルの利用状況
5. JUSTICE参加館におけるニーズ調査
6. 今後の整備に向けて

1.バックファイルとは

バックファイルとは

- 電子ジャーナルのカレント契約と異なる
- 主に創刊号～1995年前後のもの
- 販売単位
 - － パッケージ
 - － サブジェクト単位
 - － タイトル単位
- 購入方法
 - － 買切型(アクセス料金かかる場合も)
 - － 購読型
- 名称

電子ジャーナルのアクセス権の状況 (模式図)



2.バックファイル整備の背景と現状

大学図書館とNIIによる電子コレクションの共同整備 (2003年～2011年)

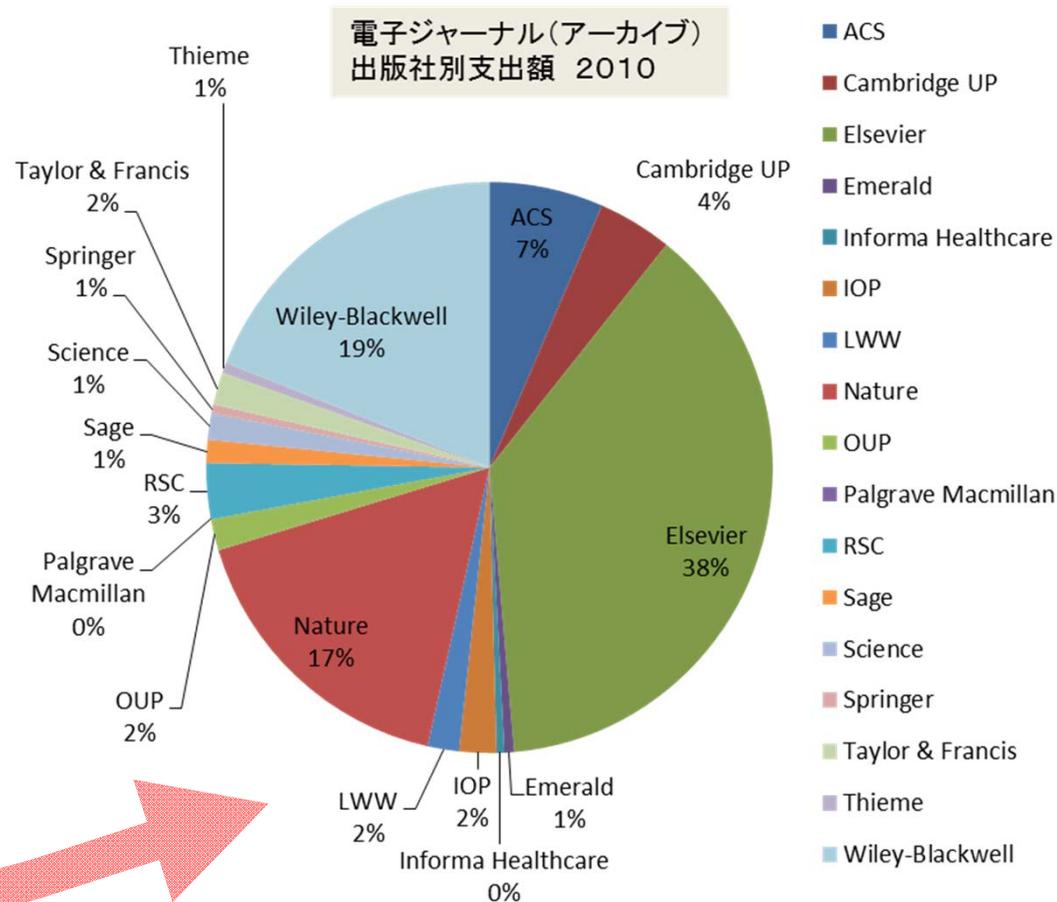
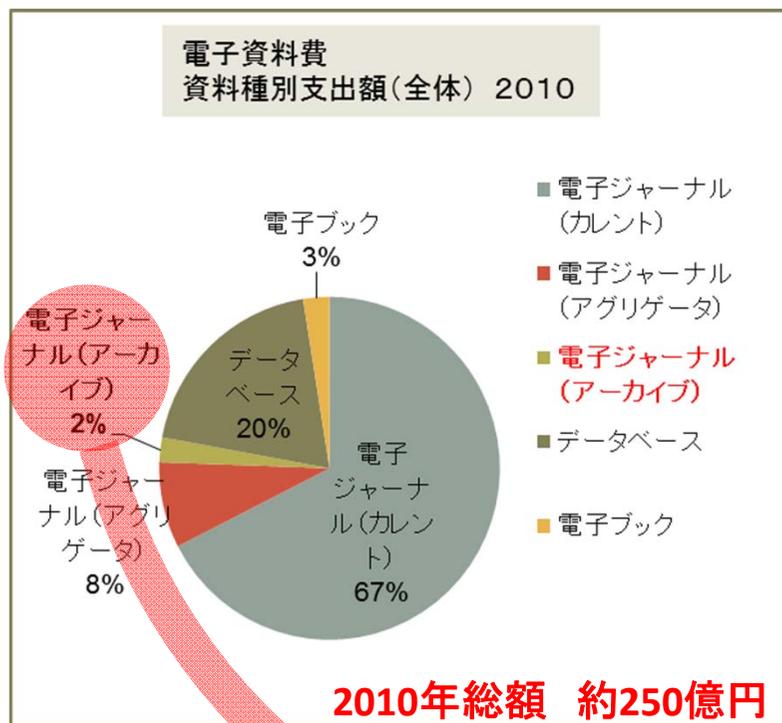
年	製品名	交渉組織	契約館数
2003	電子ジャーナル・バックファイル Oxford University Press(1996年～2003年)	NII	オープンアクセス
2006	電子ジャーナル・バックファイル Springer(1847年～1996年)	NII, JANUL, PULC	156
2006	電子ジャーナル・バックファイル Oxford University Press(1849年～1997年)	NII, JANUL, PULC	115
2009	19c&20c HCPP (英国議会下院文書)	NII, JANUL, PULC	81
2010	Making of the Modern World (ゴールドスミス・クレス文庫)	NII, JANUL, PULC	35
2011	18c HCPP (英国議会下院文書)	JUSTICE	約20
2011	電子ジャーナル・バックファイル Springer(1847年～1999年)	JUSTICE	約200

2012年1月末日現在

▶ アクセス方法

- ▶ NII-REO/NII-REO HSS
- ▶ 出版社/ベンダーのサーバ

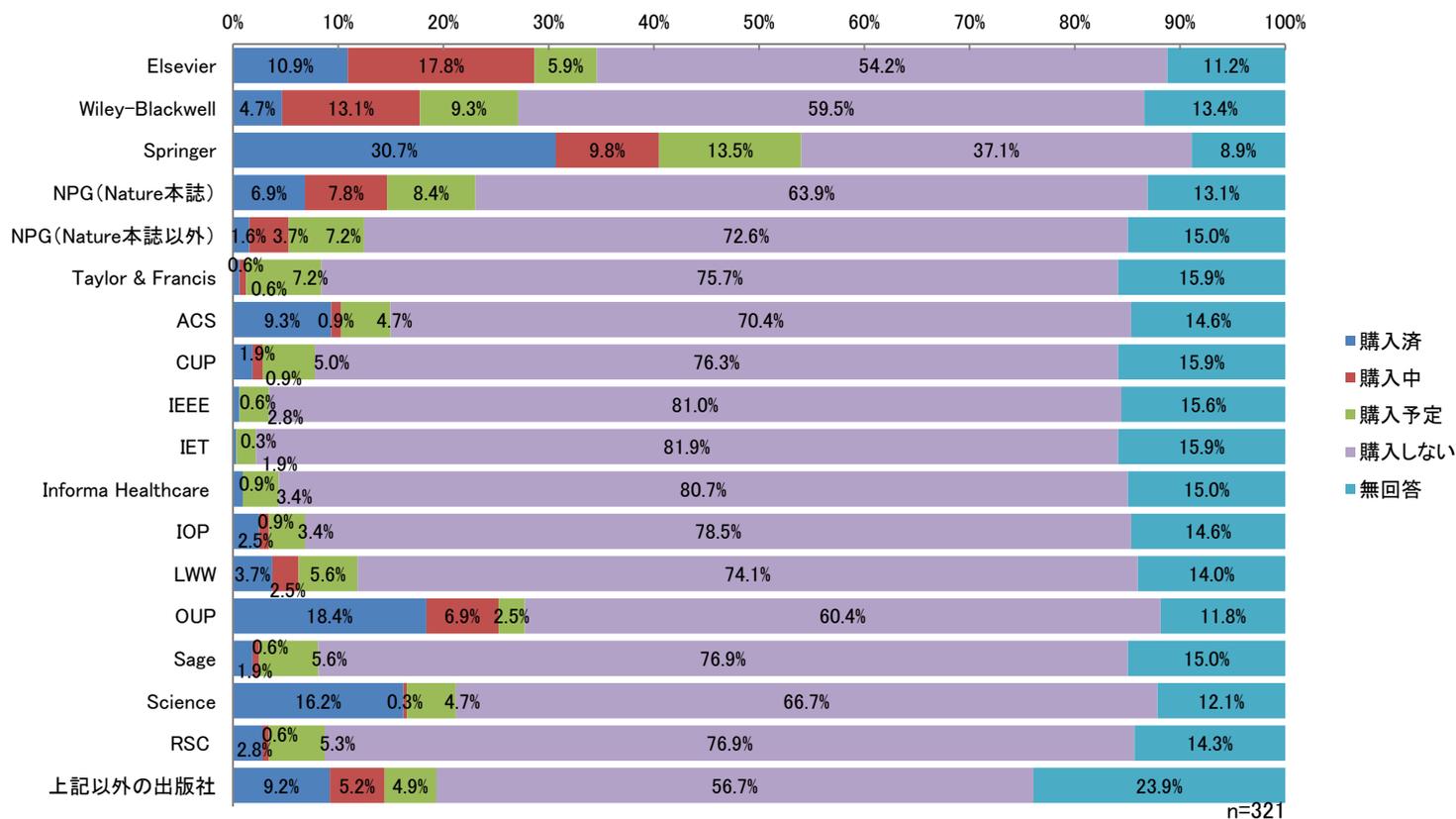
JUSTICE参加館におけるバックファイルの整備状況



出典: JUSTICE契約状況調査

JUSTICE参加館のバックファイル購入実態①

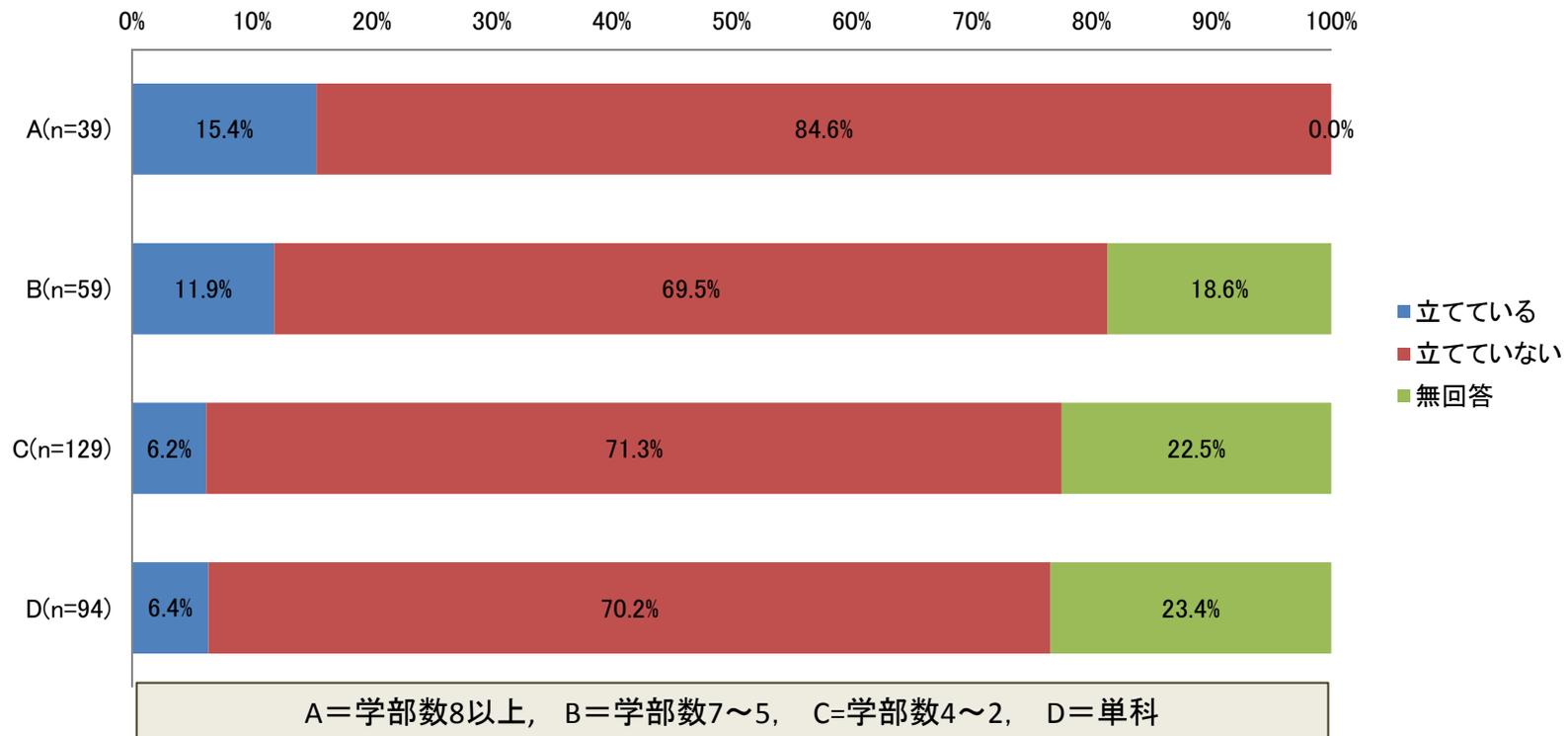
Q.電子ジャーナルBFの購入につきまして、下記の出版社商品の現在の状況をお知らせください。



出典:電子ジャーナル・バックファイルに関するアンケート調査報告書

JUSTICE参加館のバックファイル購入実態②

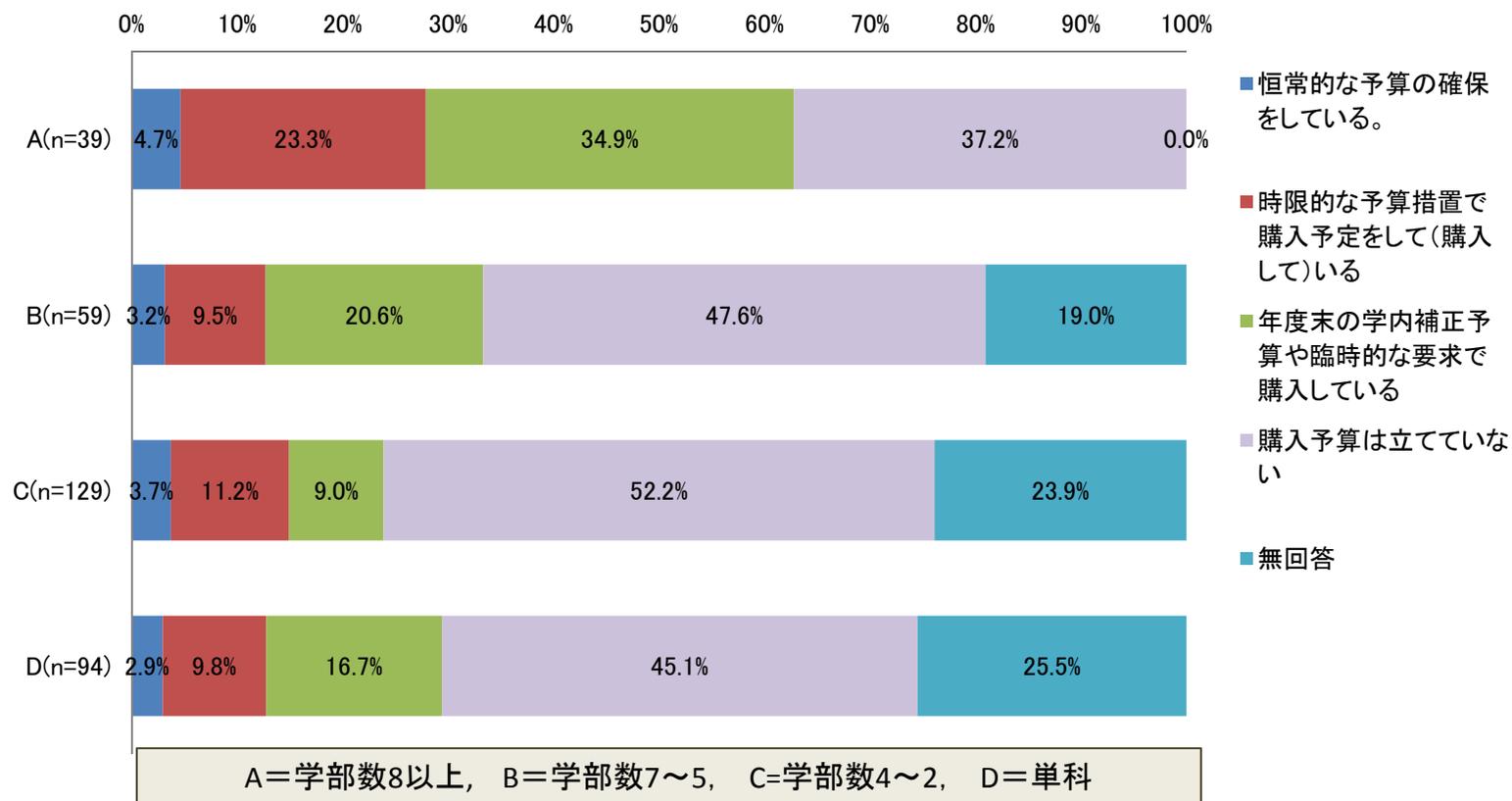
Q.電子ジャーナルBFの購入計画を立てていますか。



出典:電子ジャーナル・バックファイルに関するアンケート調査報告書

JUSTICE参加館のバックファイル購入実態③

Q. 電子ジャーナルBF購入の為に予算を立てていますか。(複数回答可)



出典: 電子ジャーナル・バックファイルに関するアンケート調査報告書

3.世界でのバックファイル整備状況

世界のバックファイル整備状況 ドイツ

- 2004年-2010年にDFG(ドイツ学術振興会)による、バックファイルや人社系コレクションのナショナルライセンスを購入するための助成を開始
- 約8,000万ユーロ(約100億円)を助成
- バックファイルのパッケージだけで60製品以上購入
- ドイツ全国の国立・私立大学の図書館、州立図書館、地域図書館という認証された施設を通じて研究者、学生に対してアクセスを提供

世界のバックファイル整備状況 フランス

- ISTEEXプロジェクト(2012～)
- 3年間で6,000万ユーロ(約60億円)が国から助成
- バックファイルの購入だけでなく、プラットフォームの開発等も含む
 - Couperin→出版社との交渉
 - ABES→財務, 法務, オフィス管理を担当
 - CNRS→ポータルを担当



Couperinの担当者 André Dazy

世界のバックファイル整備状況

中国

- NSTL(中国国家科学技術図書館)でナショナルライセンスのバックファイルを購入。大学, 研究機関は無料でアクセス可
- Springer, OUP, Nature, IOP, Turpion, Ovid, RSC, BMJ, IET等
- CALIS(中国高等教育数字図書館)もPAOを購入済み



NSTLのWebサイトより <http://archive.nstl.gov.cn/Archives/>

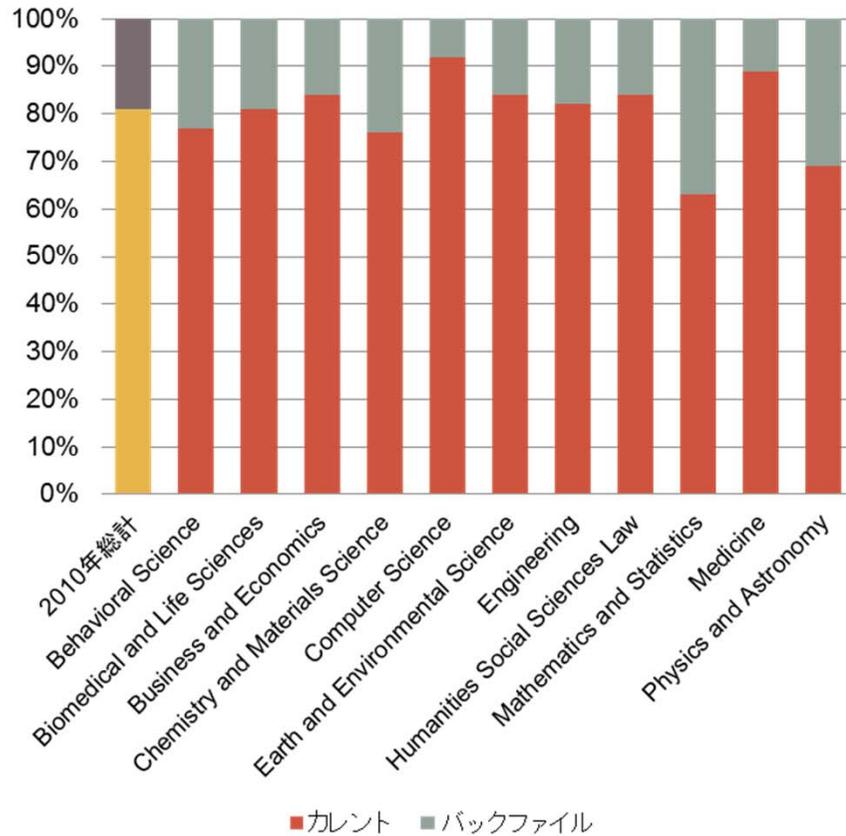
4.バックアップファイルの利用状況

バックファイルの利用

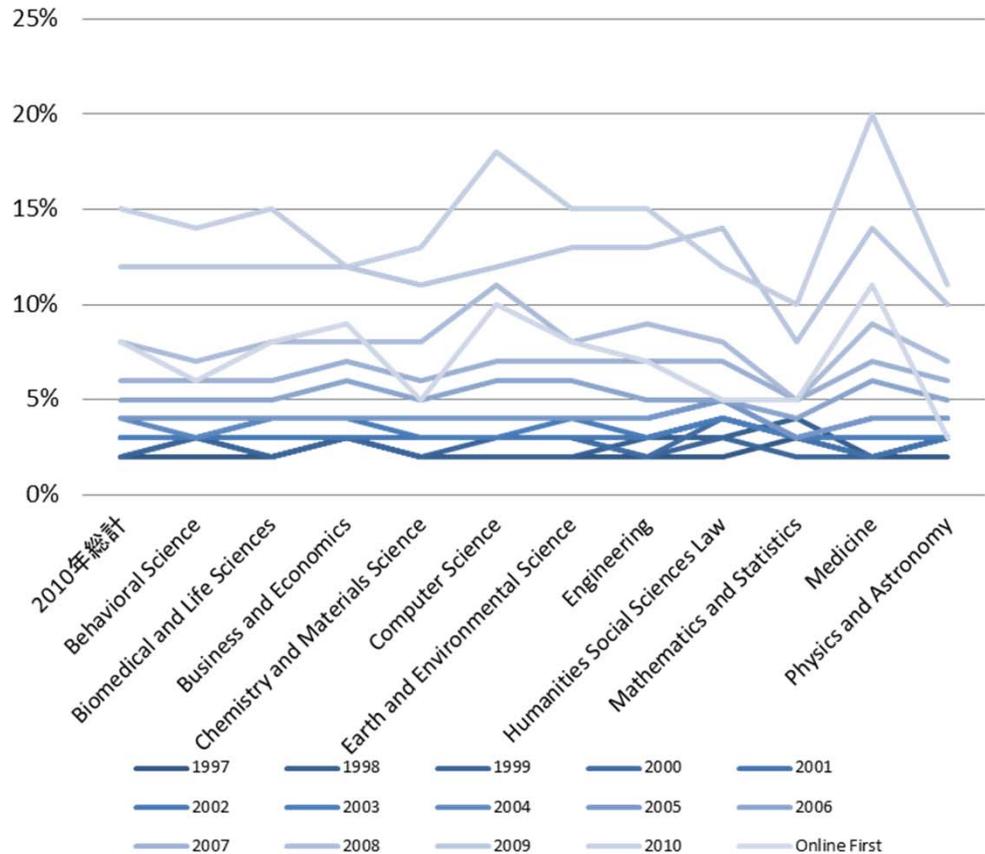
- 英国図書館 (British Library) が2007年に発表した白書によれば、STM学術誌出版社の電子ジャーナルプラットフォーム上の利用統計は、ダウンロード論文の20%から25%が5年以上前に刊行されたもの
 - Journal Backfiles in Scientific Publishing: a Making White Paper. British Library, 2007
- 国内の電子ジャーナルの利用調査の結果からも、6年以上前に刊行された論文の利用が全体の約25%を占めている (SCREAL調査 (2007) より)
 - http://www.screal.org/apache2-default/Publications/SCREAL_REPORT_jpn8.pdf

A社の世界での利用統計(2010年)

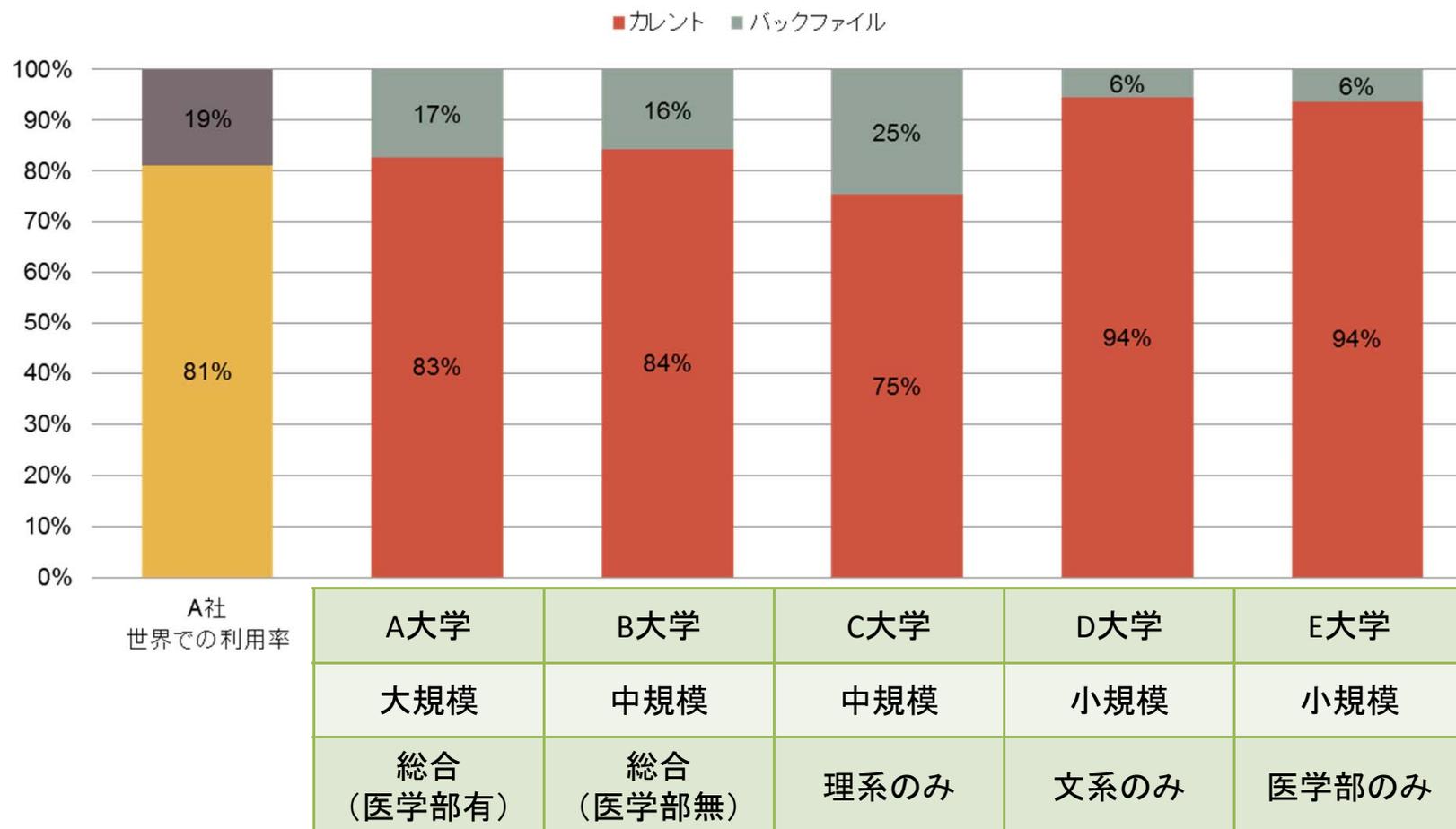
2010年の世界でのバックファイル 利用状況



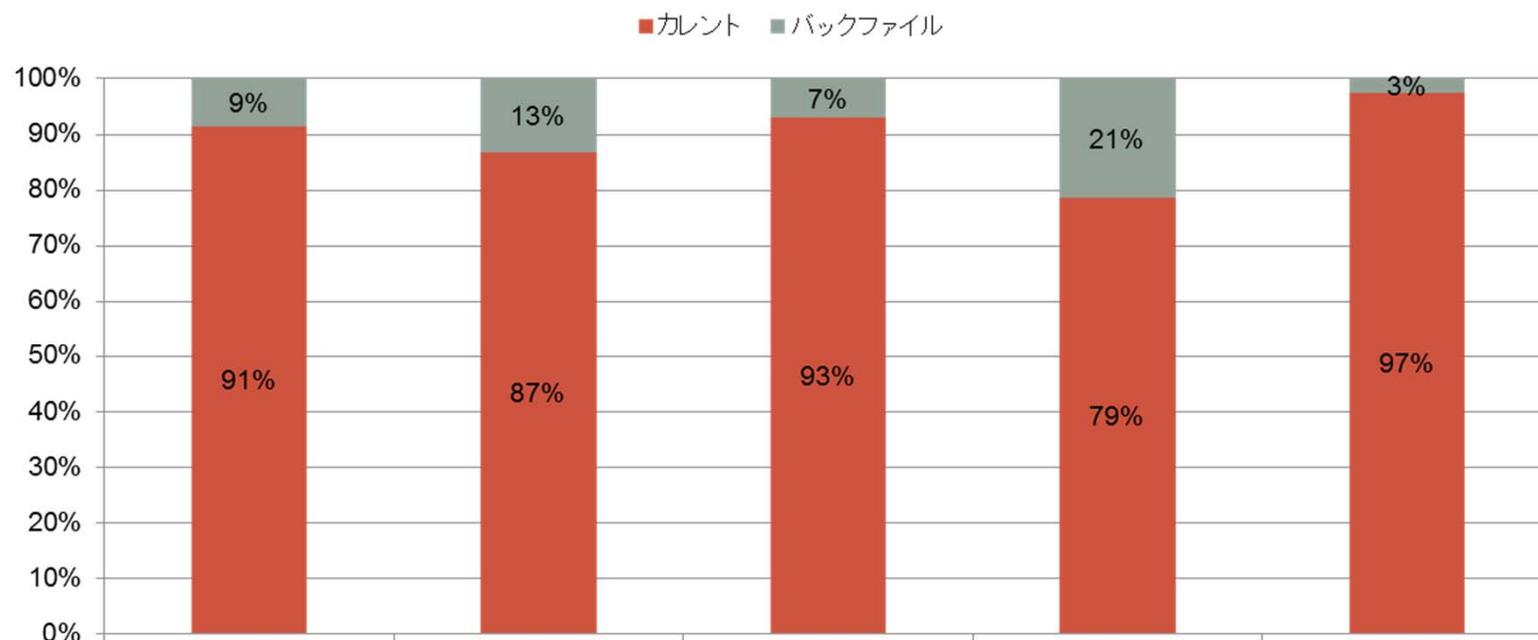
2010年にダウンロードされた カレントの出版年別データ



A社の日本での利用統計(2010年)



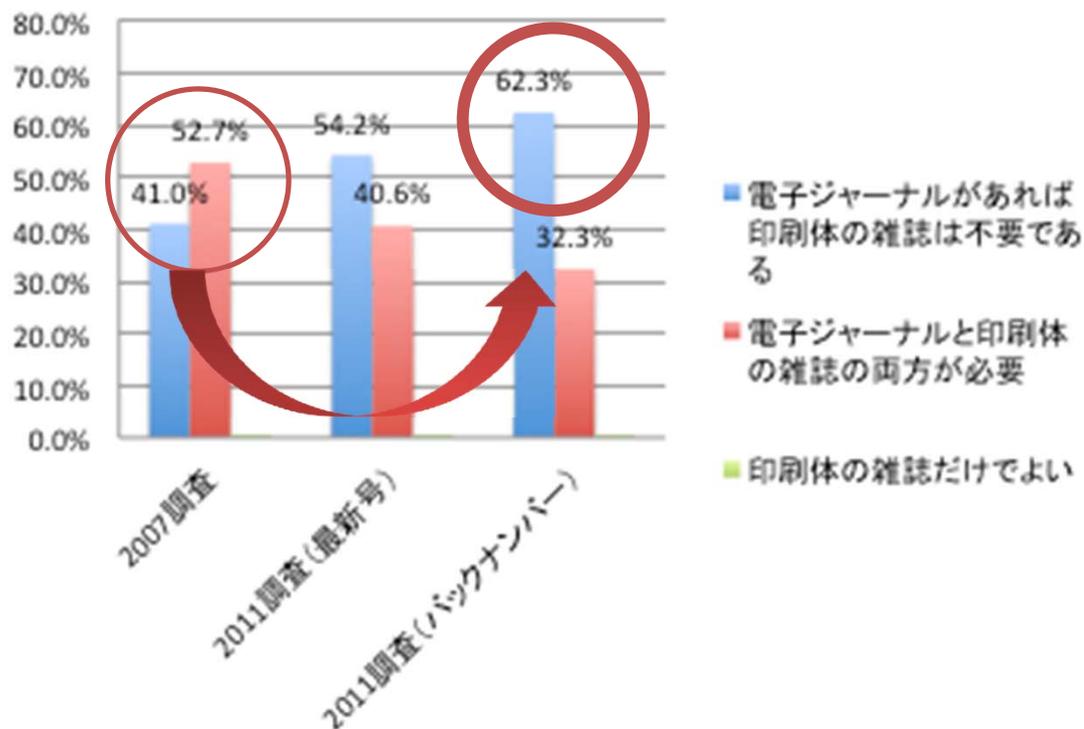
B社の日本での利用統計(2010年)



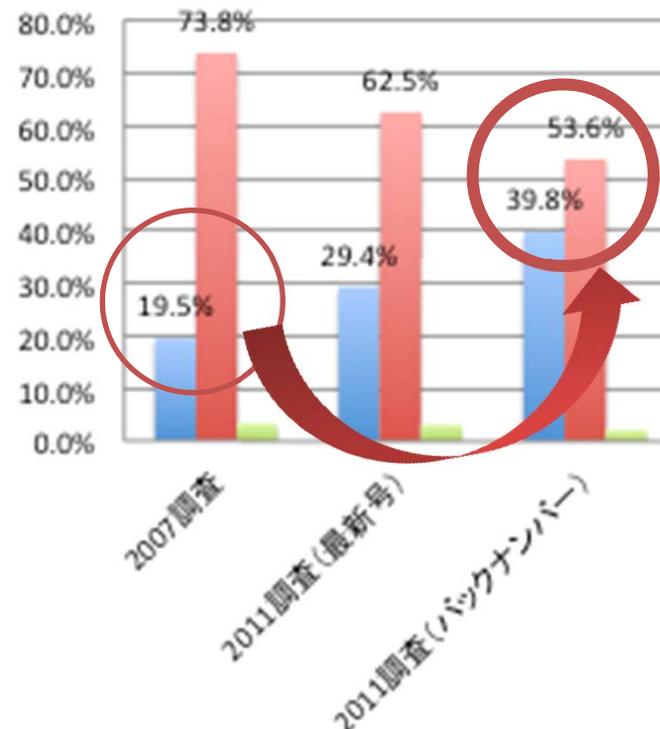
	A大学	B大学	C大学	D大学	E大学
規模	大規模	大規模	中規模	小規模	小規模
学部の特徴	総合 (医学部有)	総合 (医学部無)	総合 (医学部有)	理系のみ	医学部のみ
カレント契約	ビッグディール	ビッグディール	ビッグディール	購読タイトルのみ	購読タイトルのみ
バックファイル購入	全分野	全分野	全分野	数分野	数分野

利用者の行動，意識の変化

自然科学系



人文社会科学系



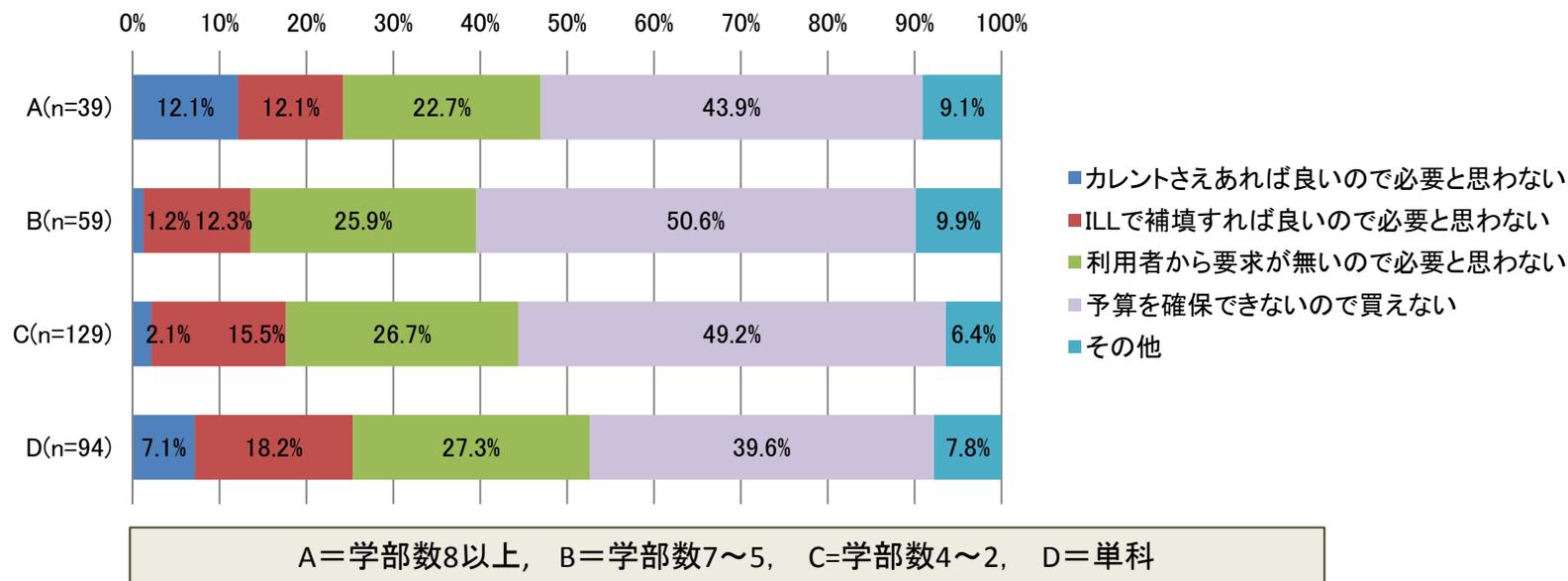
出典：2011年SCREAL調査結果速報より

5. JUSTICE参加館におけるニーズ調査

JUSTICE参加館のバックファイル ニーズ調査①

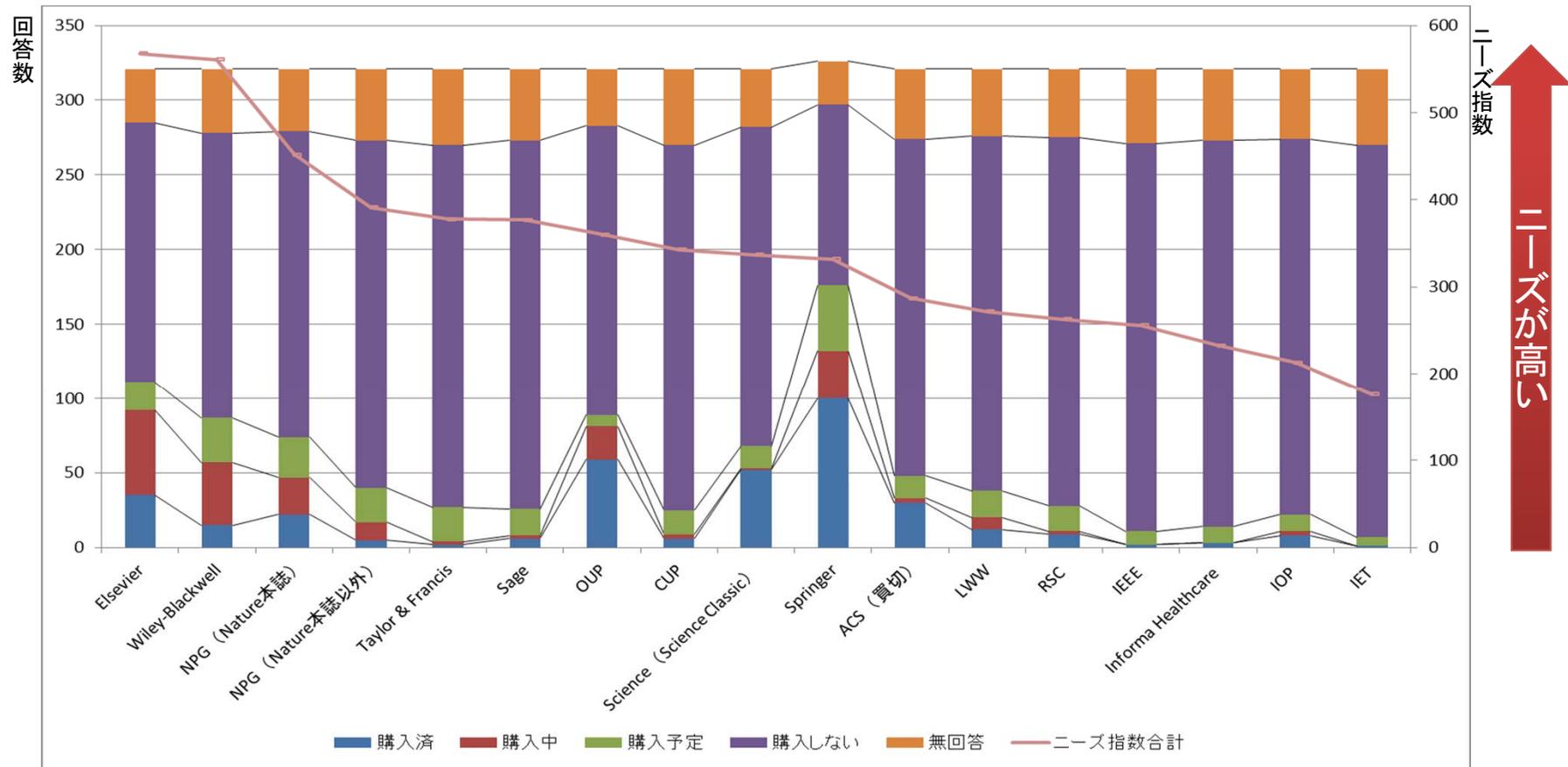
- JUSTICE全参加館宛てにバックファイルに関するアンケートを実施
 - 実施期間 平成23年12月9日～12月28日
 - 回答数 321回答(回答率約62%)
 - 主な質問 バックファイルの購読実態、利用統計、ニーズ調査

Q.電子ジャーナルBFを購入しない理由は何ですか。(複数回答可)。



JUSTICE参加館のバックファイル ニーズ調査②

出版社毎の購入状況調査とニーズを組み合わせたグラフ



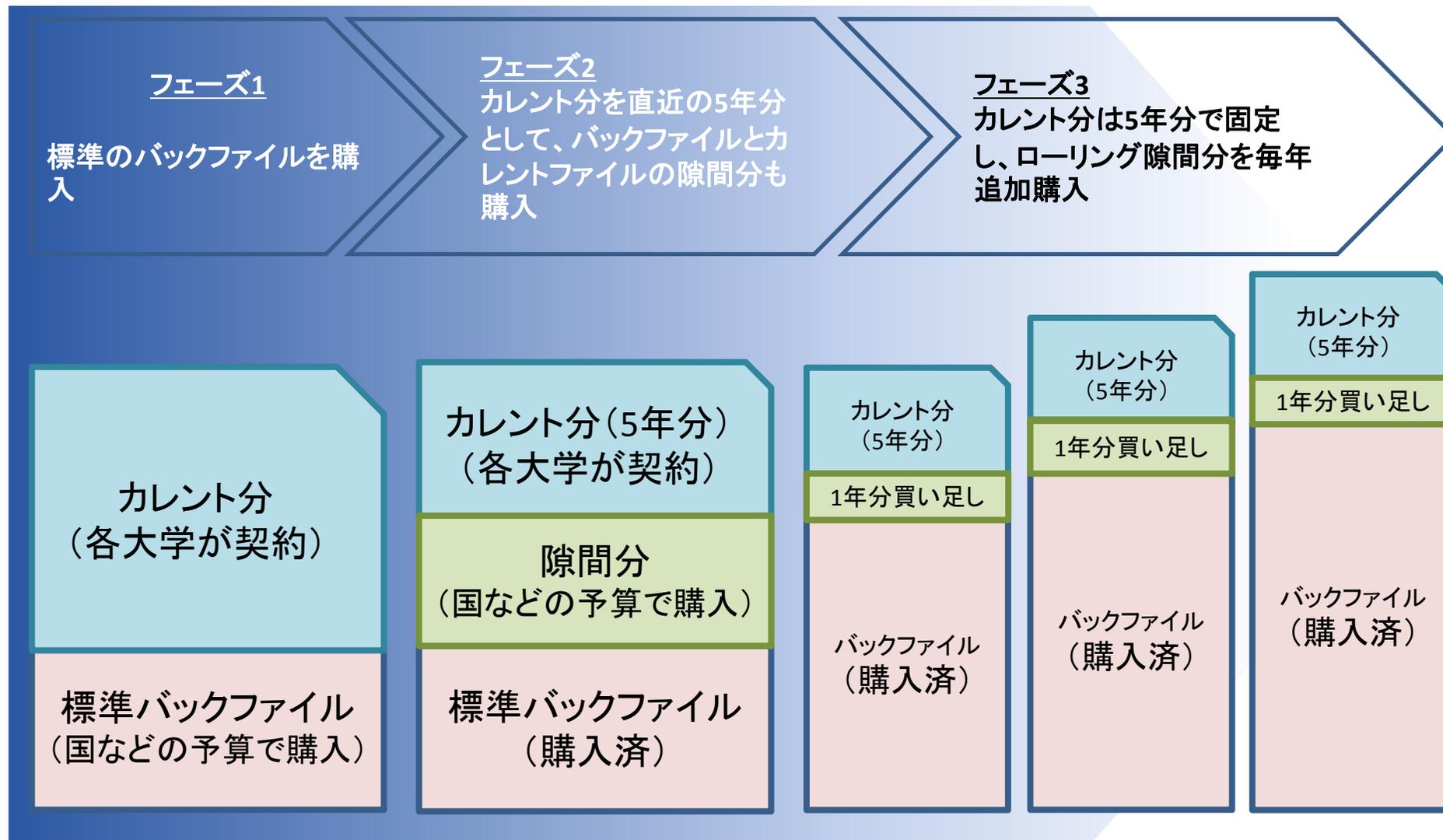
大学個別聞き取り調査

- 5大学の契約担当者等にバックファイルに関する聞き取り調査を実施
 - － 実施期間 平成24年2月
 - － 聞き取り実施大学(国立3, 公立1, 私立1／大規模3, 中規模1, 単科1)
 - － アンケート調査だけでは分からない詳細な事情を聞き取り

- バックファイル整備の理由
 - － 研究促進
 - － 書架が足りない
 - － カレントが維持できない
- 今後の問題
 - － 予算確保
 - － 評価, 費用対効果
 - － 永続的アクセス

6. 今後の整備に向けて

整備のシナリオ(一つの考え方として)



今後整備に向けて

- 学術情報基盤のセイフティネット構築
 - 電子ジャーナル等の確保が不透明、不安定な状況で、わが国の教育研究活動を活性化する基盤としての必要性
- シームレスなアクセス環境の提供
 - 電子媒体一本で提供できることによる検索の網羅性と情報入手の効率化
- 安定的な財源の確保
 - 個別の館で、カレント分の財源確保も困難になってきている状況で、セイフティネットとしてのバックファイルを整備するには、何らかの(+ α の)財源が必要
- バックファイルの累積的購入
 - バックファイルを買い足すことにより、カレント契約の範囲を限定し、負担をできるだけ軽減する